

TALISTRIO—ターリストリオ—

2012年のデビュー以来、ターリストリオは批評家から「驚嘆」「感嘆」と評され、深い濃密さ、多彩な音色、緻密な精神性を備えた演奏で高い評価を得てきた。アウクスブルク・パーク歌劇場、ミュンヘン・ニュンフェンブルク城、宗次ホールなど国内外の主要ホールに登場し、強烈で独創的なパフォーマンスで聴衆を魅了している。2011年にアウクスブルクにて結成され、あえて一切のコンクールに出場することなく独自の音楽性を追求。ザールランド放送での収録や弦楽フェスティバル記念賞受賞、日本ツアーの成功、アウクスブルク市との共同企画など活動は多岐にわたる。2025年からはピアニストのコンスタンティン・ルキノフが加入し、石若雅弥《For Japanese Seasons》世界初演やハンプルク・バッハ国際音楽祭出演など新たな展開が続く。日独交流事業や教育活動にも積極的で、欧州と日本で最も注目されるアンサンブルの一つとなっている。



岡田琢朗

(チェロ)

堺市出身。幼少より大阪音大付属音楽学園でチェロを学び、2009年に渡独してアウクスブルク大学に入学、2014年に首席卒業。以後は同大学とザール音大の両マスター課程で研鑽を積む。国内外でソロ・室内楽の演奏活動を展開し、ターリストリオを中心にドイツ、スイス、ルクセンブルク、オランダなどで幅広く活動。著名作曲家やアーティストとの共演も多い。2019年にはゼーリゲンシュタット弦楽音楽祭に招かれ記念賞受賞。同年、前衛オペラ団体「オバーンマッハー」ソリスト就任。教育にも力を注ぎ、ドイツ最大級の青少年コンクールで入賞者を輩出。日独文化交流の講演活動も高く評価され、各種メディア出演や文化イベント企画など、多方面で信頼を得るマルチアーティストとして活躍している。

エリーザ・グンマー

(ヴァイオリン)

ドイツ・ミュンヘン出身、7歳でヴァイオリンを始め、ミュンヘン音大講師ゲルトルート・シルデに学ぶ。2013年にニュルンベルク／アウクスブルク音大ディプロム課程を修了し、アウクスブルク大学でクリストフ・ヘンシエルに師事。修了後はザール音大で室内楽を専攻した。ジグモンディ、トゥルバンらのマスタークラスを受講し、2010年に同音大オーケストラと共演、2012年にはアウクスブルク市立劇場でコンサートミストレスを務めた。現在はターリストリオのヴァイオリニストとして欧州や日本で活動の他、2012年にヘンシエル四重奏団と共演、2019年にはゼーリゲンシュタット弦楽祭記念賞を受賞している。

コンスタンティン・ルキノフ

(ピアノ)

ロシア・モスクワ出身、アウクスブルク時事紙はルキノフによる《ピアノ協奏曲第5番「皇帝」(ベートーヴェン作)》を「巧緻なカデンツァと輝く技巧による壮観な演奏」と高く評価。2025/26シーズンはターリストリオでのドイツ公演や、パイロイトでのリサイタルなど室内楽を中心に出演。これまでにミュンヘン・バッハ管弦楽団との共演や《冬の旅(シューベルト作)》、各地の音楽祭出演など幅広い舞台を経験している。幼少期からの教育と1997年の渡独を経てレパートリーを広げ、「ミュンヒナー・クラヴィアポディウム」などで入賞。演奏活動は欧州主要都市に及び、アウクスブルクでは定期的に公演を行い、著名オーケストラや音楽家と共演を重ねている。

石若雅弥

(合唱指導・指揮)

堺市出身。大阪府立泉陽高校、京都市立芸術大学作曲専攻卒業。作曲を松本日之春、前田守一、中村典子各氏に師事。合唱作品を中心に約200種類の出版を持ち、懐かしさを感じさせる作風で幅広い支持を得る。劇音楽や市歌も手掛ける。関西を中心に多数の合唱団・弦楽団の指揮者や音楽監督を務め、2023年にはニューヨーク・カーネギーホールで自作を指揮し絶賛を博した。全国で客演・講習会・審査員として活動し、ピアニストや技術アドバイザーとしても活躍。主宰する男声合唱団 Chor.Draft では新たな合唱エンターテインメントを追求している。

【共演】 石若雅弥特設合唱団 石若雅弥 (合唱指揮・指導) 大谷 幸 (合唱ピアノ)

ターリストリオ・コンサートツアー

10月24日(土) 14:00 開演

フェニーチェ堺小ホール

(大阪府堺市堺区翁橋町 2-1-1)

10月31日(土) 14:00 開演

tamaki niime shop & lab

(兵庫県西脇市比延町 550-1)

11月1日(日) 15:00 開演

西脇市立音楽ホール「アピカホール」

(兵庫県西脇市西脇 991)

11月3日(火) 14:00 開演

幸田町民会館 つばきホール

(愛知県額田郡幸田町大草丸山 60)

♪ 公演 CM 配信中! ♪

tamaki niime
in Japan

特別協力

